

みんなの 町議会

 神石高原町



くるみ保育所へサンタがやってきた！ サンタさんありがとう！

第41号

平成27年1月15日

- 新体制でスタート 2
- こんなことが決まったよ 5
- 町政のここを聞く（一般質問） 6
- 元気なグループ14

新体制で スタート

12月定例会

平成26年度第4回定例会が12月10日から19日まで開催されました。

平成26年度一般会計・特別会計・病院事業会計補正予算と神石高原町職員の給与に関する条例の一部改正や神石高原町消防団の定員、任免、サービスなどに関する条例の一部改正などを審議し、すべての議案を原案どおり可決しました。

また、一般質問では7人の議員が当面の課題について質問しました。

○平成26年12月 一般会計 補正予算

補正予算額 2億8851万円
補正後予算額 102億8952万円

単位：万円（四捨五入）

費目	補正予算額	補正後予算額	主な内容
議会費	16	9228	職員人件費16
総務費	22946	16億5337	協働のまちづくり支援事業9500 普通財産管理経費12230
民生費	1174	18億5858	高齢者福祉事業140 保育所施設等管理経費754
衛生費	▲216	12億1405	病院事業会計補助経費760 特別会計（簡水・集排）繰出し金▲1090
農林水産費	2856	8億4356	農林産物販売促進施設管理運営経費1500
商工費	226	1億7433	自然公園等管理運営経費207
土木費	▲4801	6億7765	道路ストック総点検事業▲3566 単独町費町道整備事業▲754
消防費	2598	4億5746	非常備消防一般管理経費2548 防災訓練経費50
教育費	1321	6億6052	児童生徒送迎対策事業360 町立体育館施設管理運営経費220
災害復旧費	729	732	現年発生道路橋りょう災害復旧事業729
公債費	0	18億3035	
諸支出金	2003	7億8005	減債基金積立経費2003
予備費	0	4000	
合計	2億8851	102億8952	

福山地区消防組合議会議員
広島県後期高齢者医療広域連合議会議員

橋本 輝久
片山元八郎



小川清治 議員



赤木俊二 議員

総務文教常任委員会
議会運営委員会
監査委員
産業建設常任委員会

委員 橋本 輝久
副委員長 久保田龍泉
委員 松本 彰夫
委員 木野山孝志
委員 小川 清治
委員 妹尾幸太郎
委員 横山 素子

委員 村上 克朗
副委員長 久保田龍泉
委員 片山元八郎
委員 木野山孝志
委員 小川 清治

委員 寄定 秀幸

委員 横尾 正文
副委員長 村上 克朗
委員 藤田 晃己
委員 片山元八郎
委員 丸山 達夫
委員 寄定 秀幸
委員 赤木 俊二



寄定秀幸 議員



丸山達夫 議員



木野山孝志 議員



村上克朗 議員



片山元八郎 議員



横山素子 議員



妹尾幸太郎 議員



横尾正文 議員



橋本輝久 議員



久保田龍泉 議員

新たな委員会構成



松本彰夫 副議長 藤田晃己 議長

新議長・副議長決まる

新年のごあいさつ
あけましておめでとうございます。町民の皆さま、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。私こと今回の議会構成の改選に当り、議長の要職を拝命致しました。元より浅学非才、その器ではありませんが全力を傾注し、町政発展のため努力する所存でありますので、今まで同様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神石高原町も合併以来十年が経過した今日、人口も一万人を割り込んでまいりました。若者の雇用の場の確保、企業の農業の確立など神石高原町が持続可能な施策に取り組み必要があると考えおりますので、町民各位のご協力をお願い致しますと共に、今年一年が皆さまにとりまして幸せな年でありませうようお祈りし私の年頭の挨拶と致します。

神石高原町議会議長 藤田 晃己

12月補正予算をチェック



総務課

自主防災組織

橋本議員 自主防災組織の活性化のために補助する、6団体5万円の補助金は、活動実績に応じてのものか。

また自主防災組織連絡協議会補助金20万円の目的は。

前原総務課長 自主防災組織活動を行う見込みのある6団体だ。

また26年10月に組織を立ち上げている。27年早々に防災に対しての意識高揚のため講演など予定している予算だ。

本庁舎移転

片山議員 26年9月補正で、本庁舎耐震調査費300万円を決議し12月補正では、178万円

の追加補正予算計上しているが、是非でも、新築(安田付近)へ向けて踏み出すのか。

前原総務課長 本庁舎は、昭和32年の建築で図面などが少なく、耐震の構造計算が困難なため、鉄筋の構造やコンクリートの強度など追加調査の必要性から補正している。庁舎を移転するか、改修するか、このまま存続するか、現時点で全くの白紙だ。

移転ありきではない。調査の結果、庁舎がこのまま使えるという結果だとすれば、移転の件も原点に振り返り検討する。

産業課

水源確保

橋本議員 豊松陽光の里の水源調査・設計及びポンプ設置は、トマト団地限定の施設整備なのか。

また将来にわたり、水源確保は町が責任をもつて整備するのが。柏床産業課長 団地限定の水源と考えている。今後のことは、組合などと協議する必要がある。

建設課

道路修繕

横山議員 道路ストック点検事業は、大幅な減額補正となっているのはなぜか。

国重建設課長 県から示された積算基準が変更となり事業費が減額となった。

横山議員 修繕が必要箇所は来年度の予算に反映するのか。

国重建設課長 できる所から実施していく予定だ。

で、病院間の患者の情報共有できるが、レセプトデータの活用は出来ない。

保健課

レセプトデータの活用

横尾議員 町立病院へ電子カルテシステムを導入時に合わせ、このシステムの中でレセプトデータの活用が出来るのか。

神原保健課長 このシステムは、広島メデイカルネットに対応しているの

診療時間短縮

片山議員 電子カルテシステム導入費3628万円と計上とあるが、診療代精算、薬代支払いが、現状よりどれくらい早くなるのか。

神原保健課長 約10分程度は短縮可能だ。

片山議員 実用化が、来年12月の計画だが、

早くならないのか。神原保健課長 できるだけ早く実用化したい。

住民に周知

久保田議員 現在会計での待ち時間が長い、電子カルテ導入で待ち時間は短縮される。患者さん、機器の運用開始時期の明示と時間短縮など、内容を窓口などで周知し理解を得るべきだ。

神原保健課長 そのように対応する。



なごりおいしい旧神石中学校校舎

人事

神石高原町教育委員会委員 馬屋原 健治さん

平成26年12月22日に任期満了となる教育委員会委員 佐竹秀朗さんの後任。

条例改正

神石高原町特別職報酬等審議会 条例の一部改正

平成27年4月からの教育委員会改革により教育長が特別職になり、報酬の額を審議会で諮る必要があるため。

神石高原町消防団員の定員、任命、 服務等に関する条例の一部改正

消防団員の任用基準を見直し、団員の確保を図るため。

神石高原町職員の給与に関する 条例の一部改正

平成26年10月に人事院の勧告をうけた国家公務員の給与が変更になり、本町職員も人事院勧告の主旨を尊重し、勧告に準じて給料表の改訂をした。

議会から政策提言を町長に

1、高齢者支援ネットワーク体制の構築

行政・医療機関・介護関係者・地域住民が連携・協調しながら、保健・医療・介護・生活支援など、包括的に推進するために、地域包括ケアシステムと連携した神石高原町独自の「高齢者支援ネットワーク」の体制の構築を図ること。

2、多機能テレビ電話の導入及びコールセンターの整備

地域の支え合いシステムがさらに充実し、日常的な高齢者見守り・健康管理・買い物支援や在宅医療などを含めた地域ぐるみの高齢者支援体制の充実を図る。本町の高齢者支援の取り組みと地域のつながりや「絆」を補足し支えるツールとして、「多機能テレビ電話」の導入と併せて「コールセンター」の整備を図ること。

見守られている安心感!

〇〇さん おはようございます。お元気ですか?

おはようさん。あなたの笑顔を見るとますます元気になるで~!

きずな **絆** 「いつも繋がっている」との安心感!

笑顔がひろがる テレビ電話

— イメージ図 —



松本 彰夫 議員

問 地方創生法案への対応は

答 独自性・主体性に支援を求める

Q 政府は、人口の減少に、歯止めをかけるため「まち・ひと・仕事・地方創生法」を成立させた。町として充実を求める点は。

A 町長 具体的な内容が示されていないので、明言はできないが、求めるとすれば、地域の独自性・主体性に支援を求める。

Q 人口減少には、自然減少と社会的減少がある。本町の主体的な事業展開は。

A 町長 具体的な内容が示されていないので、明言はできないが、求めるとすれば、地域の独自性・主体性に支援を求める。

Q 日常生活、社会生活の基盤となるサービスについて需要・供給を見直し、サービスの提供を確保することが重要では。

A 町長 継続的なサービスの維持については、行政でできるもの以外は、協働の考え方で行う。

Q 特性を活かした創業・事業活動により、就業の創出はできないか。

A 町長 ハード、ソフト両面に渡って取り組んだ。ソフト事業では、子育て支援・婚活活動など行っているが思ったほど成果が表れていない。今までの事業を検証して、効果のある事業展開をしたい。

Q 市町村は、国や県にあわせて、総合戦略を策定する事になっていくが、本町の対応は。

A 町長 策定の留意点は、施策の分類を明確にし、その後連携を図ること。例えば、少子化と高齢化は別の課題であり、個別に対応を講じなくてはならない。

Q 財源措置は。

A 町長 明確にされていないが、各省市の事業を関連づけて



町の将来を考えるワーキングスタッフ

町政の「111」を聞く

質問時間は、答弁を合わせて一人一時間以内で一問一答方式



村上 克朗 議員

問 米価下落の緊急対策は

答 国・県に要望している

Q 本町の喫緊課題は米価下落だ。「米を作るほど赤字になる」という空前の下落、セーフティネットの交付金はカットされ、円安で燃料代や資材代などコスト増が続く。

このままでは、離農による耕作放棄地が加速し、農家・農業は存亡の危機だ。

国で検討している「ナラシ交付金の早期支払い」はまだ決定していない。「JA貸付」に対して

Q 国や県に支援の要請をしているのか。

A 町長 広島県内陸部協議会で検討し県や国に要望している。

Q 神石高原米のブランド作りに、減農薬や堆肥を使用する土づくりで「安心・広島ブランド」の特別栽培

Q 「環境保全型農業」に何人が交付金を受けているのか。

A 町長 9件の個人団体が85万円の交付金を受けている。

Q 飼料用米の生産は農業法人に飼料用米の加工生産の拡大に向けた機械・設備の導入支援を町が行い

Q ライスセンターの運営業者が乾燥業務などを行い、また、玄米はカットして畜産農家に出荷する必要があるが、畜産農家は大量に引き取れない。運営業者が保管配送をできないか。



大量に作られた稲発酵粗飼料

A 町長 取組みが可能な農家は飼料用米への転換を図っている。WCS用稲も32畝生産しており、最も有利な方法を検討する。



横山 素子 議員

問 子育て支援新制度 どう変わる

答 質と量を充実させる

Q 子ども子育て支援新制度が27年4月からスタートする事によって、町の子育て支援制度がどのように変わるのか。
A 町長 次世代育成支援行動計画を引き継ぐ計画として位置づけ、児童福祉に関する事以外に、経済的支援・医療面の支援・労働環境整備など子育てにかかわる支援についても、計画に盛り込み実践していきたい。

Q 来見地区には学童保育がなく、小島まで来ている。小学校区単位で開いて欲しいという要望があるが、

A 町長 一度に土曜日も日曜日も実施する事は困難だが、今後委託先と協議しながら対応していく。

Q 学童保育では、開所時間の延長や土曜日、日曜日を要望する意見があるが、今後改善が可能か。
A 町長 一度に土曜日も日曜日も実施する事は困難だが、今後委託先と協議しながら対応していく。

Q 事業計画の策定にあたり、保護者にニーズ調査を行っている。この結果をどう分析し、今後の子育て支援にどう反映させるのか。
A 町長 子ども子育て会議の中で分析をしている。今後、計画書に反映させ実践していきたい。

Q 病児保育の充実に向けての対応は、

A 町長 国・県に対し専門医師数の制限や医師不足地域への勤務の義務づけなどを引き続き要望していく。

Q 若者定住対策で、星の里いせき団地でも子どもの人数が増えている。町内に小児科医がいけないのは、安心して子育てできる町とはいえない。町長の見解は。
A 町長 国・県に対し専門医師数の制限や医師不足地域への勤務の義務づけなどを引き続き要望していく。

Q 子どもが遊べる場所の公園などの整備はできないか。
A 町長 今のところ予定はしていない。



アンパンマンになったよ (こばたけ保育所のクリスマス発表会)

A 町長 医療機関併設型が望ましいが、町単独での実施は難しいのが現状である。広域で連携して利用できるように、県や近隣の市町と協議していきたい。

問 本庁舎移転の方向は

答 まだ未定だ



赤木 俊二 議員

Q 26年3月の定例議会で、町長から、合併協定書に基づき、国道沿いへの庁舎移転の発言があった。町民の間に動揺があるが、町長の考えは。
A 町長 3月の発言は庁舎の実情と将来への課題認識を問いつけた。庁舎新築は、合併特例債が使えるが、これには期限がある。その期限内にしないとでき

Q 議会のハードルは庁舎移転について、議員の3分の2の賛成が必要。議員は、それぞれの地域を背景

A 町長 考え方には同意するが、耐震の結果がどう出るかわからない。3月には出るだろうが、必要であればそういった組織も立ち上げる。

に住民の意見を汲み上げながら活動し、町全体の方向性を決める立場だ。地域の利害を超えて将来を見越して町を次の世代につないでいくことは重々承知している。
時期・規模・場所を含めた総合的な観点から、必要な事項を調査検討する基本的な計画の策定委員会を、早急に立ち上げて検討しては。



耐震調査の結果が待たれる本庁舎



橋本 輝久 議員

問 要望書どう捉えるか

答 尊重し内部検討する。

Q 旧豊松中学校跡地利用については、平成25年7月に検討委員会を設置し、地区住民のアンケート結果を基本に、あらゆる角度から豊松地域の活性化のための要望書である。取り組む姿勢は。

A 町長 要望書は、豊松地域で論議されたものであり、できる限り尊重したい。医療・福祉関係の施設整備は可能だが、運営が問題であり、介護関係施設を整備する

Q 各課で子育て支援策を講じているが、町としてインパクトある子育て支援をアピールする必要がある。子育て支援を包括的に取り組む体制が必要では。

A 町長 単独事業については、少子化対策、定住対策、雇用対策と連動して包括的に窓口を一本化して取り組みたい。

Q 給食費無料化は

A 町長 単独事業に



活用が期待される旧豊松中学校校舎



横尾 正文 議員

問 自治交流センター構想への要望は

答 早急に取り組みたい地区がある

Q 各地区からの具体的な要望内容は。

A 町長 神石地区から早急に取り組みたいとの要望がある。具体的な内容については、地域で主体的に取り組むことを望まれている。

たとえば助成金の使い方などは、柔軟な考え方で対応していきたいとの要望があった。

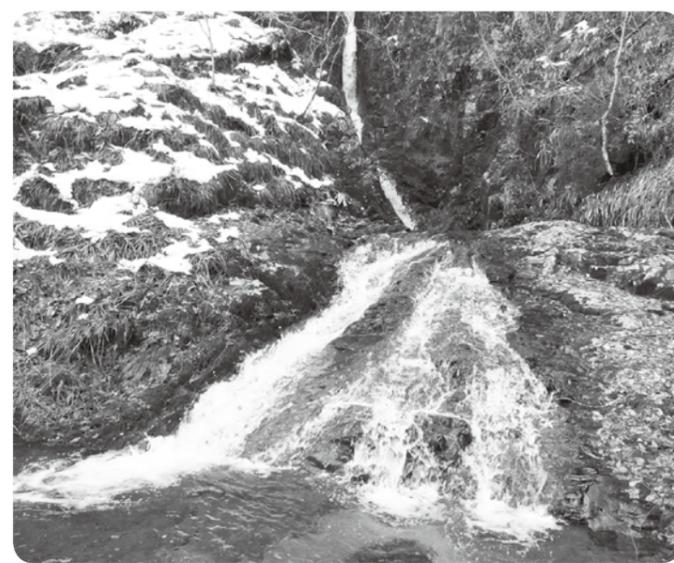
Q 今後の取り組み予定は。

A 町長 国道を含めた県管理道路と町道などについては、昨年度までと同様の体制を確保した。

除雪は業者と連携することが前提となるが、有効な取り組みが実施できれば、それは可能だ。

Q 有害鳥獣対策は

A 町長 国道を含めた県管理道路と町道などについては、昨年度までと同様の体制を確保した。



地元で整備した遊歩道を通っての馬乗りの滝(古川地区)

Q 公共事業の減少により業者や重機が大幅に減少し、除雪に支障が出る場合がある。今季の大雪対策は大丈夫か。

A 町長 国道を含めた県管理道路と町道などについては、昨年度までと同様の体制を確保した。

Q 今後の取り組み予定は。

A 町長 地区を選定するが、旧町村でエリアを決めるかはこれから検討するが、2人程度の専従職員を配置する。

また、講習会なども行っていきたい。

今後は専従職員などが、リーダーとなって地域ぐるみで取り組んでいきたい。

と、住民負担の増大は不可欠である。

将来に向けて、過剰施設のスリム化を図ることも必要であり、具体的方向性は、今後内部で検討する。

Q 協働のまちづくりは

A 町長 協働のまちづくりの基本的には、保護者の責任で行うものだ。しかし人口減少に歯止め対策として効果があるのか検証してみたい。

Q 協働のまちづくりは

A 町長 協働のまちづくりの基本的には、保護者の責任で行うものだ。しかし人口減少に歯止め対策として効果があるのか検証してみたい。

その他の質問

・農業公社の充実・拡大

し、平成28年度から、本格スタートする。

追跡 ありやあどうなったん?

有害鳥獣被害防止対策

〈政策提言による強化策〉

- ・サル用捕獲わなの設置に対する助成(捕獲班)
 - 一基 10万円
 - 捕獲奨励制度の拡充
 - 一頭 2万円

〈駆除数〉 (拡充前1万円)

平成25年度 サル 13頭
イノシシ 999頭

平成26年度(12月8日現在)
サル 12頭
イノシシ 524頭



町助成で設置したサル用捕獲わな

有害鳥獣被害は、年々増加の一途をたどっています。平成25年度野生鳥獣による農作物の被害状況調査によると、本町の被害額は、報告があったものだけで、374万円となっています。このことを踏まえ、平成25年の12月に議会は「サル被害防止対策」を町長に対して政策提言を行いました。

平成26年の12月定例会の一般質問において、町長からサル専従員の配置をすることの答弁がありました。

さらに、国は狩猟税の軽減措置を平成27年度から拡充する方針です。また今年度から10年間に二ホンジカとイノシシの頭数を半減させる目標を掲げており、今後、国も本腰を入れようとしています。



寄定 秀幸 議員

問 持続可能な町の将来展望は

答 逆転の発想で新たな創造に挑戦

Q 神石高原町発足10年が経過した。超少子高齢化と人口減少という厳しい現実に対応するため、将来を見据えた積極的な取り組みが重要と考えるが、将来展望は。

A 町長 行財政改革、住民福祉の向上や定住対策、町立病院スタート、学校整備など成果があったと思う。これからは、「新たな挑戦」をスローガ

Q 人口減少に対応するため設置した「人口減少対策推進本部」の取り組みは。

A 町長 10月2日、町長を本部長とする「人口減少対策推進本部」を設置した。職員・青年会・女性会などの若い人を中心にワーキングスタッフを編成し、人口減少の課題を検討し、対策などを考えていく。

ンに、知恵は地域にある、知恵は宝を生む、逆転の発想で新たな創造のまちづくりに挑戦する。また、安心して生活できる個性豊かで、魅力あるまちづくりに取り組みたい。法的には、人口減少による自治体の消滅はない。萎縮したり、後ろ向きになる必要もない。

Q シティプロモーション(町のPR)に取り組み自治体が増加している。役場に営業部門を設置すべきでは。

A 町長 良い提案だ。早速、内部調整し具現化したい。

Q 若者定住対策の推進と子育て支援のさらなる拡充が大切では。

A 町長 各施策に一貫性を持たせ実効性あるものにするため、「人口減少対策推進本部」において総合的に検討する。

Q 創造的経済においては人が資本である。地域おこし協力隊への積極的な取り組みをすべきでは。

A 町長 人が人を呼ぶ具体的な取り組みは重要だ。任せて起

業してもらいたいとの強い願いがある。意欲ある隊員へは投資をしても良いと考えている。



シティプロモーションの発表をする神石高原中の生徒

Q 国の「地方創生活策」との連携と連携は。

A 町長 神石高原町の「まち・ひと・

しごと創生総合戦略」を策定し、連動して取り組みたい。

その他の質問

- ・医療・介護の連携
- ・土砂災害防止対策
- ・動物愛護施策

全会一致で可決

議員発議

・米の需給・価格安定対策及び需要拡大を求める意見書

米政策等の見直しによる農政の転換を迎える中、先に発表のあった全国の26年産米の概算金は各銘柄とも大幅に引き下げられており、価格低迷が続けば採算ラインを割ることも懸念され、農業経営への影響は避けられない。

政府においては、米の需給・価格安定対策及び需要拡大対策に取り組まれるよう強く望み、次の事項について適切な措置を講じられるよう強く要望する。

1. 収入減少影響緩和対策のための円滑化対策については、十分な予算を確保するとともに、交付金を早期に支払うよう措置すること。
 2. 需要に応じた生産に取り組み稲作農家が、将来にわたって持続的かつ安定的な経営が出来るよう、万全なセーフティネットを構築すること。
 3. 飼料用米の生産拡大を図るために、乾燥・保管施設の整備や流通体制の強化支援、また「水田活用の直接支払交付金」などの必要な予算を確保すること。
 4. 米の需給改善のため、主食用米の消費拡大や米粉用米などの非主食用米の利用拡大を図るとともに、本格的な輸出促進対策を講じること。
- 以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。
- 平成26年12月19日

提案者 寄定 秀幸 賛成者 橋本 輝久

アンケート調査のお礼

議会議員定数報酬研究会では議会改革の一環として皆様のご意見をお伺いするためにアンケートを実施しました。皆様方から貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。なお、アンケート結果については、次号でお知らせする予定です。

元気なグループ紹介だよ



コーラスヨブ

県民文化祭2014ミュージックフェスティバルでの発表

私たちのグループは1991年12月にメンバー33人で結成しました。

目標は仲良く、楽しく歌を通して親睦を深め、歌を追求してテクニクを高めることです。毎月第2、4の水曜日を定例練習日とし、岡田先生の熱心なご指導と藤上さんのピアノ伴奏に支えられて今年で23年目を迎えました。

今までに歌った曲は100曲近くになり、県民文化祭・地域芸能祭や各種イベントへの参加・福祉施設の訪問などがあります。また、節目ごとの記念コンサートも行い、ステージに立つ機会を多く持っています。

歌う事は腹式呼吸をし、腹の底から声を出し、日頃のストレスや疲れを取り去り元気の源となっていてます。舞台上立てば若作りですが、平均年齢も高くなります。新メンバーも募集しています。皆さん、一緒に歌いましょう。

代表 今井 ゆきみ

発行責任者

第23回 議会クイズ

《クイズ》空欄に適切な言葉をいれてください。

1. 神石高原町議会〇〇〇〇でスタート
2. 政策提言・高齢者支援〇〇〇〇ワー
3. 一般質問・子育て〇〇新制度でどう変わる
4. 議員発議・米の需給・〇〇安定対策及び需要拡大
5. コーラス〇〇〇

《ヒント》
議会広報をよく読んでね。

《応募方法》

ハガキに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。

正解者多数の場合は厳正な抽選により、5人の方に10000円分のやまなみ商品券をお送りいたします。応募は、1人・1通に限らせていただきます。

《あて先》〒720-1522

神石高原町小島(〇一五)神石高原町議会事務局 「第23回議会クイズ係宛」

《締め切り》2月10日(火) 消印有効

《個人情報取り扱いについて》
ご記入いただきました個人情報、賞品発送および「まちの声」などの目的以外には利用いたしません。

編集後記

一年間で一番寒く、布団から出るのがつらい時期となりました。私だけでしようか。

昨年の衆議院議員選挙では自民党が圧勝し、日本の舵取りは今まで通り安倍政権のもとで行われる事になりました。

町議会も新体制となり、心機一転で頑張っていきます。

広報委員会もメンバーは変わりませんが、体制は変わりました。未熟な委員長ですが、委員の皆様にかけて頂き、町民の皆様のご意見を聞きながら、多くの人に読んでもらえ、親しまれる広報誌を作っていきたいと思えます。(素子)

議会を傍聴してみませんか 次回の定例会は3月です

日程は告知放送などでお知らせします
一般質問はケーブルテレビで放送します



- 議会広報常任委員会
- 委員長 横山 素子
 - 副委員長 赤木 俊二
 - 委員 橋本 輝久
 - 委員 横尾 正文
 - 委員 妹尾幸太郎

TEL 0847-89-3340
FAX 0847-85-4201